

令和7年度外部評価会 集計表(農業者)

所属名：熊毛支庁農政普及課

項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①農業者や地域が必要とする課題であるか	1	3	0	・農家が今困っていることに寄り添った取り組みを。 ・茶農家には必要な課題と思うが、種子島全体としてはどうかと感じた。	
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	1	3	0	・対象農家の意見が分かればよかった。	
活動体制・活動 方法	③関係機関とうまく連携して活動しているか	2	2	0		
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	1	3	0		
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	2	2	0		
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	0	4	0		
活動の 波及性と改善	⑦他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	2	2	0	・独特な品種のため、波及性が乏しい。 ・変化に対応した指導を強化してほしい。	
	⑧結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	2	2	0		

令和7年度外部評価会 集計表(関係者用)

所属名：熊毛支庁農政普及課

項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①課題は地域の農業振興上、重要な課題であるか	2	2	0	・昨年から価格が高騰し情勢が変化しているが、課題についてはこれまでどおり取り組むべき。 ・生産者が減少しており、重要な品目である。	
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	2	2	0	・技術・経営面的に大切であり、設定は概ね適当。 ・転換期のお茶に期待できるので、適切。	
活動体制・活動 方法	③関係機関と連携して活動しているか	3	0	1	・活動に対しては、適当と考えるが、実施にあたって連携が取れていたかは疑問。 ・関係機関と連携できている。	・関係機関・団体等と連携した取組の強化を図る。
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	3	1	0		
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	3	1	0		
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	3	1	0	・農家が取組によって、どのように考えているか発表だけではわからないが、成果につながっている。 ・今後、有機転換に向け、期待している。引き続き取り組んでほしい。	
	⑦指導対象が積極的に課題解決にあたるようになったか	3	1	0		
活動の 波及性と改善	⑧他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	2	2	0	・茶業を取り巻く情勢は、大きな転機を迎えているため、良い波及になれば良い。	
	⑨結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	2	2	0		

「種子島茶の産地」の維持・発展に向けた取組支援



明治時代の茶畑
(西之表市古田地区)

熊毛支庁農政普及課 鎌田

1

種子島の茶の生産状況

(令和6年度, ha, t)

	栽培面積	荒茶生産量
西之表市	72	318
中種子町	18	53
南種子町	15	14
計 (県内率)	105 (1.3%)	385 (1.4%)

引用: 令和6年度鹿児島県茶業振興対策資料

【特徴】

- ・日本一早い「走り新茶」の産地
- ・種子島特有の希少品種が多い
松寿, くりたわせ, しゅんたろう
しまみどり, みねゆたか 他

●: 島内の主な茶園所在地



2

種子島の茶経営について【現状】

○収益性

種子島特有の極早生品種を中心に、日本一早い「走り新茶」産地として、高単価を獲得してきた。

しかし近年は、市況低迷に伴い「走り新茶」の優位性が低下し、単価の下落が続く。

(県茶市場の種子島産一番茶価格:直近5か年平均約1,500円)

○生産管理

気象の変化、高齢化、労働力不足、経費高騰により、従来の生産管理が困難。

→ 収量・品質の低下が懸念。

○情勢

近年、緑茶の海外需要は高騰(特に抹茶・有機茶)。
ただし、種子島で取り組む生産者は少ない。

3

種子島の茶経営について【課題】

○生産環境の変化に対応した生産技術の向上,
収益性の安定確保

○労働力不足への対応

○新たな茶種・生産方法への取組

○種子島茶のさらなる消費拡大

課題解決策

○一番茶収益性の安定確保に向けた生産技術の向上

【活動1】収量・品質向上への技術指導

○労働力・人材確保等の取組支援

【活動2】大規模経営体・法人の経営改善に向けた協議支援

○新たな茶種・生産方法への取組支援

【活動3】有機栽培への転換支援

○種子島茶のさらなる消費拡大支援

【活動4】種子島茶PR活動の支援

対象：市町茶業振興会，熊毛地区茶業推進協議会

連携：市町，JA，経済連，農業開発総合センター 他

5

【活動1】収量・品質向上への技術指導

○巡回・研修会



一番茶製造講習会
巡回指導

【茶園管理】

気象条件に伴う栽培状況を
確認し，対策を提案

【荒茶製造】

市場入札情報（市場評価）に
基づき，品質改善に繋げる

会員同士の製品を比較評価し，
品質向上を図る

（R7は紅茶も実施）



荒茶共進会で品質評価

6

【活動1】収量・品質向上への技術指導

○技術実証(例:段階的更新による樹勢強化)

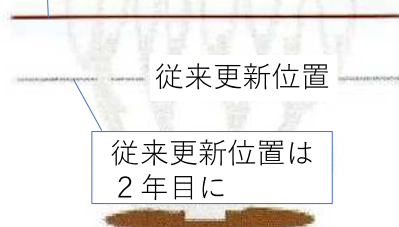
対象:樹勢低下茶園, 長期未更新茶園

目的:樹勢回復・強化

最適枝条位置への切下げ幅が大きい場合に生じる翌年減収の抑制

方法:2年かけて段階的に深刈りを実施

1年目は従来更新位置より浅く、活性の高い枝条を整枝



段階的更新のイメージ

【技術実証実績(1年目結果)】

区	整剪枝			一番茶実績(摘芽調査)		
	深刈り (地上高)	最終摘採	秋整枝	摘芽数 (本)	百芽重 (g)	生葉収量 (10a換算)
実証区	53cm (約2節上)	○	○	36 (95%)	39.6 (105%)	402kg (105%)
対照区	43cm	○	○	38	37.9	382kg

樹勢回復により, 収量・品質向上が期待される

7

【活動1】収量・品質向上への技術指導

○情報提供



振興会等で情報提供

配布資料に, その都度必要な情報・対策, 実証成果等を掲載

(2) 深刈り
活性的高い(結構太い)枝を剪定することにより、50~55日程度で再生される。8/10までの最終摘採に向け、6/15までに実施する。

時期	更新位置
6/15頃まで (最終摘採8/10頃の55日前)	樹冠面より10~20cm下(枝太さの約、切口径:割り箸先端) (※上記条件の位置が地上60cm程度になるのが望ましい)

樹勢低下茶園や長期未更新していない(樹高がかなり高い)園では、樹勢回復と翌年の減収抑制を目的に、2年かけて段階的に二番茶後深刈りを行う。

更新位置	目的・効果
1年目 目標位置より2節上(細くしない)	枝数の大減を抑え、目標位置付近にも再生枝をつくる
2年目 目標位置(前年深刈り位置より2節下)	目標位置で再生枝を切れ、下層位に良好枝数を確保

【技術実証実績(1年目結果)】

区	深刈り (地上高)	最終摘採	秋整枝	一番茶実績(摘芽調査)		
				摘芽数 (本)	百芽重 (g)	生葉収量 (10a換算)
実証区	53cm (約2節上)	○	○	36 (95%)	39.6 (105%)	402kg (105%)
対照区	43cm	○	○	38	37.9	382kg

※ 品種・栽培条件: 松茸・慣行栽培・前年更新より3年経過
※ 摘採調査は、摘採前日(3月25日)に行った。
※ 調査は20cm四方枠で実施し、収量調査は+1.8cmで採取した葉を対象とした。
※ 実証区減収率の()は、対照区に対する割合。

1年目深刈りの状況(上:実証区 下:対照区)

☆成果

茶園管理・荒茶製造技術の向上による品質改善

【活動2】大規模経営体・法人の経営改善に向けた協議支援

【大規模経営体A】

○法人化の検討

専門家派遣による検討

☆成果

経営状態を客観視，判断視点を習得



専門家との意見交換

○労働力確保対策(外国人材派遣)

情報提供，マッチング

受入の状況確認，実績の整理

☆成果

派遣活用の成果・反省点を整理

→ 導入事例として他経営体へ周知

派遣受入事例発表



9

【活動2】大規模経営体・法人の経営改善に向けた協議支援

【組合法人B】

○法人の持続的運営に向けた体制の見直し



視察研修



労働力
研修会

経営研修会



茶園(管理労力)維持には・・・
共同管理による労働力共有
会社化による資産共有
就業者確保に向けた情報発信
の重要性を認識

10

【活動3】有機栽培への転換支援

○制度・事業活用支援

有機JAS認証(情報提供)

転換補助事業(申請内容検討)

○生産管理指導

栽培状況確認・対策指導

病虫害・生育・土壌調査

生産技術情報提供

使用可能資材情報(管理暦掲載など)

有機栽培勉強会

☆成果

有機栽培実践:3戸→6戸へ

有機転換による収益性変化の見通し例

項目	慣行との比較
売上	荒茶単価は約500円/kg高※1 → 年約15万円/10aの向上
負担	農薬費は約9,000円/10a低減※2 肥料費は約4,000円/10a増加※2 除草作業負担が増加

※1:R7県茶市場実績 ※2:熊毛支庁農政普及課R6試算



有機栽培勉強会

11

【活動4】種子島茶PR活動の支援

○消費者へのPR支援



PR販売会への出展



小学生へのお茶の淹れ方教室



リーフレット作成

生産者がPRする機会づくり
市町振興会が支援体制を継続

【活動4】種子島茶PR活動の支援

○県・全国茶品評会への出品支援

【県大会】

評価向上を図る

【全国大会】

玉露部門への出品支援



出品茶生産管理指導

☆成果

良品生産技術の習得・向上

→【県大会】入賞継続

【全国大会】玉露部門に出品



出品茶製品

13

今後の課題

○一番茶収益性の安定確保に向けた生産技術の向上

・収量・品質向上技術の地域波及

○労働力・人材確保等の取組支援

・大規模経営体・法人の経営改善に向けた協議(継続)

○新たな茶種・生産方法の取組支援

・有機栽培茶の安定生産

○種子島茶のさらなる消費拡大支援

・種子島茶PR活動の支援(継続)

明治から紡がれる「種子島茶の歴史」を
継承していけるように・・・

14